

ユニークな
地質系博物館
(13)

フォッサマグナミュージアム

竹之内 耕¹⁾・宮島 宏¹⁾

1. 悠久の歴史

「ぬな川の底なる玉 求めて 得し玉かも 拾ひて 得し玉かも あたらしき 君し 老ゆらく惜しも」(万葉集, 卷十三). ぬな川は糸魚川地方の古い呼び名で, 玉はヒスイをあらわしているという. 古代よりヒスイの産地として知られる糸魚川にフォッサマグナミュージアムが昨年(1994年)の4月25日に開館した. 糸魚川地方は, 周知のとおり, 糸魚川-静岡構造線をはさんで, 西側には飛騨外縁帯や舞鶴帯, 中国帯の東方延長部があり, 岩石の種類もきわめて豊富で, しかも, 飛騨帯の衝上に伴う蛇紋岩メランジの形成によって, きわめて複雑な地質構造をもつことで知られる. 一方, 東側はフォッサマグナで代表される厚い非火山性堆積岩類で特徴づけられる. このような境界地帯に住み着いた糸魚川の先人たちは, 蛇紋岩を打ち欠き磨いて石器をつくり, ヒスイに精巧な穴をあけて玉をつくり, 独特なヒスイ文化を築き上げた. 奈良時代からその存在が

忘れ去られていたヒスイは, 1939年(昭和14年), 河野義礼氏が姫川支流小滝川に転がるヒスイの存在を学会誌に発表したのを契機に, ヒスイが日本にも産することが再び知られるところとなった.

2. ドイツからの資料

この地質学的に由緒ある地, 糸魚川にもう一つ, 貴重な資料がドイツから届けられた. E. ナウマン博士ゆかりの品々である. それらが糸魚川に到着したのは, E. ナウマン博士が1893年にフォッサマグナを命名してから, ちょうど100年目の年にあたる. ナウマン博士の孫にあたるD. ナウマン氏とE. ライアー夫人からは博士愛用の品々の寄贈を, ミュンヘン大学, ミュンヘン古生物学博物館からは人事文書類や博士が研究した化石の借用を受けた. 高校時代の成績証明書, ミュンヘン大学での博士試験の願書や試験の答案などの学位取得関係文書, 測量儀, 高度計, コンパスなどの地質調査用具, 博士が研究した北海道産アンモナイト化石, 博士が描い



写真1 フォッサマグナミュージアム. 糸魚川市街地の南方の丘陵地, 美山公園に位置する. 西は飛騨外縁帯の山々が, 東はフォッサマグナの山々が, 北は能登半島を浮かべた日本海が一望できる.

フォッサマグナミュージアム: 〒941 糸魚川市一の宮1313

キーワード: フォッサマグナミュージアム, 糸魚川, ナウマン博士, ヒスイ, フォッサマグナ

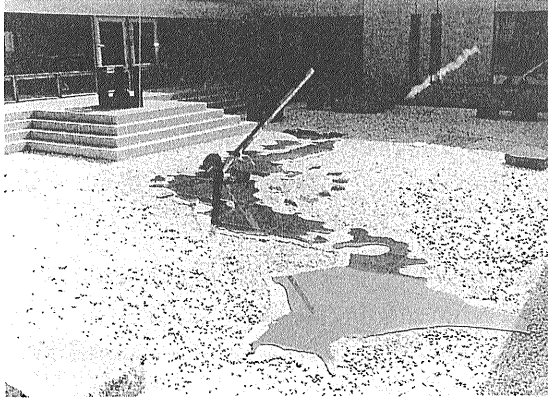


写真2 天然石貼りの日本列島とヒスイの日時計。



写真3 第2展示室「魅惑の石たち」。水晶を模した外観は、蛍光の美シアター。



写真4 第3展示室「大地のロマン」。E. ナウマン博士の展示コーナー。

た水彩画や自作のオペラ作品などが公開されている。



写真5 青年時代のナウマン博士。ミュンヘン大学へ進学したナウマンは、チッテル教授と上級鉱山局長のギュンベル氏から古生物学と地質学を学んだ。博士号請求論文は「シュタルンベルク湖の杭上住居址の動物群」で約5000年前の人類遺跡と哺乳動物群を研究した。

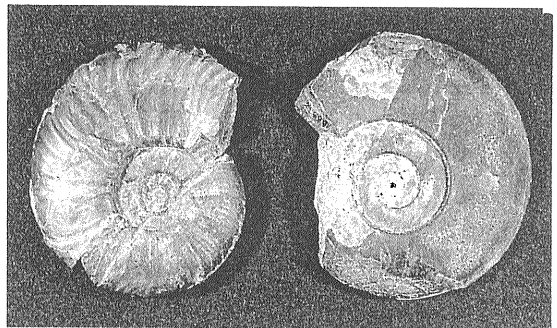


写真6 北海道浦河産アンモナイト化石。ライマン博士が採取し、ナウマン博士が研究したもの。後に横山又次郎博士、松本達郎博士らが研究した。左は *Neopuzosia japonica* (SPATH), 右は *Hauericeras (Gardeniceras) angustum* YABE. (いずれも約9×10センチ)

3. 地球のドラマ

地球をつくる美しい鉱物や人間を産み出すはるか以前に、生まれては消えていった生物たち、糸魚川という舞台で繰り広げられたさまざまな地球のドラマが、閑静な雑木林が被う丘陵地のフォッサマグナ

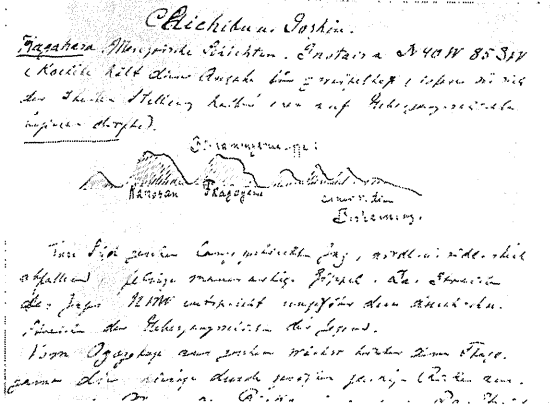


写真7 ノート(部分拡大)。ナウマン博士の自筆で、きれいなペン文字で調査結果や発想がまとめられている。このページには秩父と上州の境界付近にある叶山、両神山、二子山の山容や地質のことが書かれている。(縦323×横212×厚さ40ミリ)

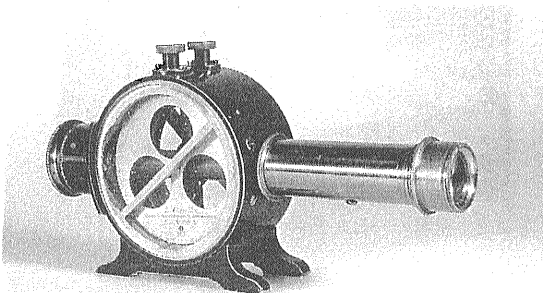


写真8 測量儀。望遠鏡と全円分度器がついている。(長さ139×高さ71ミリ)

ミュージアムに甦った。巨大なヒスイ原石を配した前庭やヒスイの日時計が置かれた「石の庭」、ウィーヘルト地震計、サヌカイト石琴は訪れる来館者に地球の息吹きを身近なものに感じさせるにちがいない。常設展示室は「地球誕生」(第1展示室)、「魅惑の石たち」(第2展示室)、「大地のロマン」(第3展示室)、「人間と石」(第4展示室)の4つからなっている。地球の悠久の歴史が刻み込まれ、大自然に抱かれた由緒ある地質ゆかりの地、糸魚川で、雑踏が入り込まない日本列島の遠い過去へ旅立ってみてはいかが。フォッサマグナミュージアムは北陸自動車道糸魚川ICより、車で約10分である。

場所：〒941 新潟県糸魚川市一の宮1313

フォッサマグナミュージアム

1995年2月号

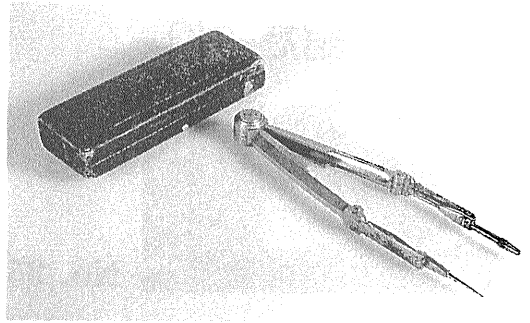


写真9 コンパス。先端を回転させるとディバイダーになる。(長さ119ミリ)



写真10 晩年のナウマン博士。1899年にミュンヘン大学を辞職し、鉱山会社の顧問として、フランクフルトに移り住んだ。1927年2月1日、72歳で没した。お墓はフランクフルト中央墓地にあり、妹2人と静かに眠っている。

TEL 0255-53-1880, FAX 0255-53-1881

営業時間：9:00-16:30

休館日：月曜日・国民の祝日及び休日の翌日・年末年始

入館料：大人500円、子供300円

TAKENOUCHI Ko and MIYAJIMA Hiroshi (1995): Fossa Magna Museum.

〈受付：1994年6月3日〉